

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和1年6月30日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4675700100
法人名	有限会社 エミ企画
事業所名	グループホームくりの
所在地	鹿児島県始良郡湧水町米永181番地の1 (電話) 0995-74-1220
自己評価作成日	令和1年6月10日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和1年6月28日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは県道55線沿いにあり、目の前には栗野岳の山々や川内川があり、自然に恵まれた環境に位置しています。2階へ続く階段は温もりのある一枚板を使用し、緩やかで移動しやすい作りになっています。玄関先や、テラスには利用者がゆっくり寛げる長椅子が置いてあり、各自が外気浴を楽しんだり、皆さんで茶話会を行っています。敷地内には、多目的ホール「ふるはうす」があり、誕生会や敬老会等を行っています。外部からの慰問を呼びかけ、地域への開放を行い、ダンスの練習や講習会の会場として活用しております。又、季節の野菜が実る小菜園があり、利用者の方々も野菜の成長、収穫を楽しみにされています。1、2階への移動は、木造りの階段とエレベーターで容易に行き来出来、歩行困難な方や車椅子の方々も外への散歩や園庭での食事会等活動の幅が広がり、利用者様同士の交流も深まっております。日々の生活では残存機能を生かし、洗濯物畳みや、調理の下準備、畑の手入れ等、利用者様の能力、意欲に応じて一緒に取り組んでおります。又利用者様が取り組みたいことや好きなことなどの趣味活動で、充実した生活が送れるように支援しています。基本理念、活動目標の理解に努め利用者様の尊厳を重んじ、誇りやプライバシーを損ねないケアを心がけています。そのより良いケアを重視して「学び伝えたいこと」をテーマにカンファレンスや勉強会を計画しホーム研修を充実させている。利用者様に「真の家族」と感じて頂けるようなアットホームな施設を念頭に置き、スタッフ間で互いに声を掛け合い、自然と笑顔あふれる対応を心がけています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは町中心地に近い県道55号線沿いの、自然豊かな農村地帯に設置されている。開設15年目を迎え、地域密着型サービス事業所としてホームは住民に周知されて、地域との協力関係や日常的な交流が密に図られる関係を構築している。園周辺の散歩時の会話や友人知人の来訪、買い物、地域行事への参加、ボランティアの受け入れ等を積極的に取り組み、ホーム主催のイベントには、多くの家族や住民の参加が得られて、利用者の楽しみとなっている。また、法人は敷地内の多目的ホール「ふるはうす」を地域住民に開放すると共に、高齢者福祉や認知症ケアに関する住民からの相談等にも、専門性を活かして適切な助言を行っている。

管理者及び職員は理念に沿って、誇りや尊厳を大切にしながら思いを把握し、常に笑顔で接し、その人らしい生きがいのある暮らしの支援に努めている。日常の活動は無理強いすることの無いように、また、心身の状況に配慮した利用者主体のケアに取り組んでおり、気泡浴や24時間入浴可能な設備の導入や自家製ヨーグルトで腸の活性化を図って便秘を改善するなど、工夫を重ねながら支援している。利用者や家族からの意見や要望に対しては、職員全体で協議してより良いサービスの実践に努めており、利用者や家族との信頼関係が構築されている。

管理者は、日頃から気軽に意見が言い合える雰囲気づくりに努め、意見や要望等を把握して運営やサービスの質の向上に取り組んでいる。職員のスキルアップを図る研修の実施や日頃のケアに対する助言・指導を積極的に行い、勤務シフトや外部研修の受講には可能な限り本人の意向を反映させるなど、職員の意欲向上及び働きやすい職場環境の整備に努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念・活動目標は玄関、ロビーに掲示している。毎朝の申し送り時や、毎月の職員会議の際に唱和し、共有して実践している。	利用者が地域と触れ合いながら最高の生活の場となる支援を理念及び活動目標に掲げ、ロビー等に掲示し朝礼や職員会議時の唱和や研修の実施、ケアの振り返り等を行って意義の共有と理念に沿ったケアの実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の行事への参加や、地域の中学校の福祉体験への受け入れを行っている。園周辺を散歩時地域の方と挨拶を交わし、交流できる場を持てるよう努めている。	地域の情報の把握に努め夏祭りや豊祭相撲等に参加し、ホーム主催の敬老会には多くの家族や地域住民の参加が得られている。日頃の散歩時の会話や友人・知人の来訪、農産物の差し入れ、施設見学や職場体験の受け入れ、ボランティアによる慰問等も積極的に受け入れている。法人の多目的施設「ふるはうす」を地域に開放しており、住民は気軽に研修会や集会、自主講座等に活用している。高齢者福祉やケアに関する住民からの相談にも専門性を活かして助言するなど、日常的に円滑な交流を図っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	ほほえみ通信を発行し各事業者などへ配布することにより、ホームでの取り組みを知らせている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>定期的に(年6回)会議を開催している。利用者状況、各行事への取り組み、サービスの実際について報告し、出席者の意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>家族、住民代表、町担当職員等が参加して定期的に開催している。ホームの現況や行事、利用者の状況、事故及びヒヤリハット事例、外部評価の結果等を報告し、併せて介護保険や認知症ケアに関する意見交換も行っている。委員からは利用者のケアや防災に関する質問、地域の情報等が活発に出されている。職員は議事録で共有を図り、協議して業務の改善やサービス向上に活かしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>町主催の研修に参加したり、ホームの敬老会に参加を呼びかけている。役場長寿福祉課、地域支援包括支援センターへ、指導を仰ぎながら、協力、支援を頂いている。</p>	<p>町担当職員には、日常的に介護保険や各種制度の手続き、利用者のケアや施設運営に関する相談等を行い、助言・指導を受けるなど協力関係を築いている。町やグループホーム連絡協議会主催の会合や研修会に積極的に参加して、行政や他施設職員との情報交換に努め、業務やサービスの改善に繋げている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束について年3回勉強会を行い、職員同士周知するよう取り組んでいる。平成30年度4月より身体拘束適正検討委員会を開催し、現在必要とされる利用者はいないが、定期的に会議を開催し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束については、定期的に研修を実施し、身体拘束適正検討委員会も開催して、事例研修や意見交換等で共通の認識を深めている。昼間は施錠は行わず、利用者の見守りや対話、寄り添いに努めて思いを把握し、尊厳を大切にしたい拘束のないケアの実践に取り組んでいる。不適切な言葉づかいやケアに対しては職員間でも注意し合うなど、日頃から改善に努めている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>身体拘束同様年3回勉強会を行事の中に組み入れ開いている。身体的のみならず、言葉や対応の仕方も虐待につながることを周知し、事例を用いて虐待防止に取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、必要とされる利用者はいない。外部研修に参加し、学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、契約書や重要事項説明書を読み合わせ、確認している。疑問点や、要望に関しては十分に説明を行い理解し納得して頂けるよう努めている。又改定時にはご家族に説明し、文書にて通知行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回の家族会時や、平素の面会時にご意見や要望などについて伺い、お応えしている。又、面会簿に自由に記入して頂き、そこに記載された件についてはケア会議や、職員会で全スタッフと話し合い、運営に反映している。	日頃から見守りや寄り添いに心がけて、利用者の想いや意見を会話や仕草、独自のサイン等で理解に努めており、家族からは来訪時や運営推進会議、家族会（年1回）、面会簿、意見箱等、工夫して把握している。出された意見等は申し送りや業務日誌等で共有し、全員で協議して運営やサービスの向上に取り組んでおり、家族にも対応状況を報告して理解を得ている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は、年2回個別に職員の意見や提案を聞く機会を設けている。又職員会の際にも意見、要望を聞く機会がある。管理者は、日常業務の中で職員と意見交換を行い、代表者と話し合い運営に反映している。	管理者は、日頃から職員とのコミュニケーションに努め、日々の業務の中や職員会議、ケア会議、年2回実施の個別面談等で意見や要望を把握し、また、必要に応じて個別の悩み等も聴取している。出された要望等は協議して改善を図っており、勤務シフトは可能な限り職員の意向を反映させている。スキルアップを図るため施設内研修を計画的に実施し、また、外部研修の受講には職員のキャリアや意向を反映させるなど、意欲の向上と働きやすい職場環境の整備に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>代表者は、管理者や個々の職員の努力や、実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるような職場環境、条件の整備に努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>個々の希望に応じた参加調整を行っている。又、スタッフから「自分が学び伝えたいこと」をテーマにあげホーム内研修で計画し、意欲向上に努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>町主催の会議への参加や外部研修に積極的に参加して交流や意見交換を行い、新しい情報を得て、サービスの質を向上させている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>利用開始の段階では、本人からの困りごとや要望等を聞いた り、日常生活の中で傾聴する時間を多く作り、信頼関係を築くことに努めている。</p>			
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>困り事や不安・要望をご家族の方が話すことが出来るように傾聴に努め、安心できる関係づくりに努めている。</p>			
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ご利用前の生活状況や、生活歴を確認し、入所後も続けていきたい事、出来ることを把握し、又、他関係機関から得た情報を元に「その方らしさ」が反映されたサービスを計画するよう努めている。</p>			
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>基本理念を踏まえ、ホームが我が家、スタッフも家族と思って頂けるように接している。洗濯物畳みや調理の下準備など、出来る役割を一緒に行っている。</p>			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回家族へお便りを書き近況報告を行っている。年4回のほほえみ通信では、全体の活動状況をお知らせしている。面会時にも日々の出来事を伝え、近況を報告している		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力を得て墓参りや外泊、外出して頂いている。外出先で馴染みの方にお会いした時は、会話して頂いている。地域の行事に参加したり、町内外のドライブや行楽に出かけている。	各利用者の生活歴や家庭環境、社会性等を把握して、馴染みに関する情報を共有している。家族や友人の来訪時には話しやすい雰囲気づくりに配慮し、利用者の希望に沿って買い物や一時帰宅、ドライブ、外食、墓参等を家族と連携して支援している。「ほほえみ通信」やコメントを添えたお便りで利用者の近況を伝え、また、遠方の家族とは電話や手紙等の取り次ぎも行なうなど、関係の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団生活の中、孤立することがない様に、職員が間に入り交流できるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された時は面会に行き、亡くなられた際にはお通夜・葬儀に参列している。又、落ち着かれる頃(49日頃)お便りを差し上げ心のフォローを行っている。偶然お会いした際は、気軽に来園されるよう声掛けしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で表情や、言葉から意向や、思いを把握するように努めている。困難な場合は利用者の視点に立ち、職員で話し合い本人本位に検討する	利用者の思いや意向の把握に努め、生きがいのある、その人らしい暮らしの支援を家族と連携して取り組んでいる。全員での活動に加え、利用者の意向に沿って趣味（ぬり絵、楽器演奏他）や家事（洗濯物たたみ、調理の手伝い、食後の片付け）への取り組みを、心身の状況に配慮しながら利用者主体の個別支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に生活歴等、本人・家族から情報収集している。又、入所前の関係機関からの情報も合わせ、ご本人の思いを把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の様子を見て一緒に行動（散歩したり、会話する）してその日、その時の思い、体調などを把握している。心身状態については、職員間で情報を共有し、対応を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向、主治医の意見などを参考に、毎月のケア会議で支援を統一すること、注意することを話し合い、必要な支援とは何かを検討し介護計画を作成する。毎月モニタリングを行い現状に即した計画を作成している。	本人・家族の意向や主治医の意見、モニタリング等を基にケア会議を開催し、残存機能に配慮した利用者主体のきめ細かな介護計画を作成している。ケアの実施状況は「業務日誌」「バイタルチェック」等に詳細に記録して共有を図っている。定期的な見直しに加え、状況の変動時には計画を修正する等、実状に即した計画を作成して改善に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にバイタル、食事量、水分摂取量、排泄、睡眠状態などについて記録し健康状態を把握。評価表を各担当者が作成し、今後の支援、介護計画に生かしている。勤務に入る前に必ず目を通して		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族の要望を十分に聞き取り、日々の変化から予測されることをお伝えし、不満の生じないケアを心がけている。特に、転倒し骨折し入院、入院せずベッド上で安静加療されるなど柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり、行政や、町議、運営推進員に相談し、指導を仰ぎながら、一人一人の生活を支援する。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医の受診を支援する。ホーム協力医による眼科、内科各月1回の往診を受ける。体調異変時にはその時の状況に応じて病院受診、往診など、支援を行っている。	各利用者の病歴等を把握し、本人・家族が希望する医療機関での受療を家族と連携して支援しており、月1回協力医療機関や眼科の訪問診療も実施されている。日頃から看護職員を中心に健康管理が徹底され、協力医療機関との医療連携の体制も築かれて、利用者及び家族の安心に繋がっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、午前、午後でバイタルサインを測定し異常の早期発見に努めている。平素と違う症状が見られた際は、看護師に報告し指示を仰ぐ。その後、往診、受診、緊急搬送等適切な支援をする。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は病院関係者と情報交換を行い、安心して治療できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。早期退院に向けての対応が出来ることを伝え、早期退院につながっている例が多い。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居開始時に重度化や終末期に伴う指針を説明し、同意書を貰っている。利用者が重度化等の場合、主治医から家族への説明後、家族の要望を確認している。状況変化に伴い再確認し、主治医、職員と連携し、家族と方向性を共有できるよう取り組んでいる。看取りの事例もある	重度化や終末期のケアに対する指針を整備しており、利用開始時に本人や家族に説明して同意を得ている。重度化した時点で主治医より病状が伝えられ、家族及び関係者は、状況に応じた話し合いを繰り返しながら、可能な限り希望に沿った支援体制を構築しており、毎年2～3件の看取りを実施している。看取り終了後はケアの振り返りを行い、終末期や急変時対応の研修も実施して、職員のスキルアップや不安感の軽減を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルに沿って対応している。避難訓練時に応急処置、応急手当の訓練に参加している。全職員、普通救命救急の講習を受講している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回消防署立会いの下、昼夜間想定避難訓練を実施している。隣接の施設へも呼びかけし緊急時の応援要請のお願いをしている。緊急時に備え食料などを備蓄している。</p>	<p>年2回夜間を含む通報、避難、消火の訓練と応急手当等の研修を実施しており、町役場や地域住民、家族の協力体制も構築している。ハザードマップを掲示し日頃からマスコミによる災害情報をもとに意見交換を行い、連絡網、避難経路の確認、消火器やコンセントの点検等、防災への認識を共有している。スプリンクラーや火災通報装置を設置し、懐中電灯、ラジオ等の整備や飲料水や食料品、介護用品を備蓄している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会や職員会で言葉使いや接し方等の講習を実施している。特に入浴、排泄時等肌を露出する場面などは羞恥心に配慮し、プライドやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者の尊厳やプライバシー確保については、マニュアルを整備し、職員会議やケア会議で研修の実施やケアの振り返り、意見交換を行って適切なケアの実践に取り組んでいる。更衣や排泄、入浴時のケアに際しては人格や羞恥心に特に配慮しており、居室やトイレ、浴室等はプライバシー保護に配慮した構造になっている。情報誌への掲載など個人情報の取扱いについては承諾を得るなど、適切に取り扱われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いを第一に支援を行っている。何をどうされたいか、日々の関わりの中で思いを推測し、本人の希望に沿い、又希望に添えるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、入床等好きな時間にして頂いている。食事摂取するスピードや、眠気などを考慮し時間を調節行い、利用者のペースで食事をして頂いている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	散髪は定期的に職員が行ったり、理髪店に同行したり、家族にお願いしている。服装に関しては、朝一緒に選び着用して頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき、もやしの根取り、ゴボウのササガキなどの調理の下拵えをして頂いたり、コロッケ、餃子づくり、餅つき等一緒に行っている。下膳や、お盆拭きなど手伝い頂いている。	疾病に伴う食事制限や形態、栄養バランス、嗜好等に配慮し、菜園や差し入れの野菜も活用して調理しており、利用者も楽しみながら食材の下ごしらえや片付け等を行っている。季節の行事食や誕生会、手作り弁当持参の外出、手作りのおやつ、流しラーメン、家族との会食など食事が楽しみなものとなるよう工夫している。利用者毎に食事や水分の摂取状況を把握し、口腔ケアもプランに沿って支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量を記録に残しスタッフ間で共有している。食器やスプーン等を工夫したり、食事形態も工夫している。行事食(行楽、誕生会等)も手作りで利用者にも喜んで頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、お茶うがい、ブラッシングを行う。うがいが困難な方には口腔用ウェットタオルにて清拭を行っている。自力可能の方には、声かけ見守りを行う。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	毎月ケア会議を実施し、一人一人の排泄状態を職員全体で把握し、排泄動作、トイレ案内の支援を行っている。日中は全利用者様トイレに案内し、自然排泄を促している。	各利用者の排泄パターンを把握し、可能な限りトイレでの排泄を支援している。利用者の身体状況に合わせた介護用品やケアの方法を、介護計画に反映させて改善に努めており、便秘予防に毎日自家製のヨーグルトを取り入れる等工夫し、主治医とも連携して対応している。トイレ誘導や衣服交換時のケアや言葉づかいは、利用者の羞恥心やプライバシーに特に配慮して取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師、看護師と相談し食事量、水分摂取量を把握し排便コントロール行っている。野菜やヨーグルト等、毎日の献立に取り入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴は24時間対応できる設備にしている。週3回を基本としているが、病院受診や外出、ご本人の意にそぐわない時は、時間、日を改めて入浴して頂く。	基本週3回の入浴を利用者の心身の状態に配慮しながら支援している。気泡浴や24時間入浴可能な設備を導入して、随時の入浴希望や好みの温度、時間などを柔軟にゆっくりと気持ち良く楽しめるように取り組んでおり、入浴後は水分の補給や皮膚疾患の処置を支援している。入浴をためらう利用者には無理強いないで時間や順番、声掛け等を工夫して、意欲を待つように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人が安心して休んで頂ける場所、居室以外にもソファベッドなども利用し休んで頂いている。眠気が強い様子、体調などを考慮し居室に案内している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	生活記録に薬の服薬状況を綴じ、いつでも確認できる状態にしている。薬の変更があった際は連絡帳に記入し、情報提供書を綴じ、服薬忘れや誤薬がない様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きな飲み物をお茶の時間に準備したり、好きな食べ物を取り入れている。洗濯物畳みをして頂いたり、パズル、読書、花植えしたのを鑑賞したり、畑の野菜を収穫して頂いたりしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スーパーや精米所に出かけたり、地域の行事に積極的に参加している。花見や、紅葉見学、イルミネーション見学など1年の行事計画に組み利用者全員出かけられるように支援している。又、ご家族にも協力頂いている	外出に対する利用者の意向を、日頃の支援の中で把握し、健康状態や天候等に配慮しながら、園周辺の散歩やドライブ、買い物、一時帰宅、墓参り等の外出を家族と協力して取り組んでいる。地域行事への参加や季節の花見、紅葉狩り、鯉のぼりやイルミネーション見物など、ホーム全体での外出も計画的に実施してリフレッシュを図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在家族が管理されていて、現金を預かっている方はいないが、希望があれば管理の支援を行う。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族より電話や手紙があれば、ご本人に取り次ぎ、ご本人から要望があったときは、掛けて差し上げている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた壁画を一緒に作成し飾ったり、園庭に咲いている花を机に飾っている。その日の気候に応じて、換気、採光、温度、湿度調整に配慮している。	ホーム全体がバリアフリーの構造で、廊下やリビング等はゆとりのあるスペースが確保されている。随所に利用者の写真や絵画、季節にあわせた貼り絵や活花等が飾られ、清掃や空調、臭気にも十分配慮して、和やかで清潔感のある空間となっている。リビングにはテーブルセットやテレビ、ソファ等の家具が利用者の動線や利便性に配慮して備えられ、園庭やテラスにも椅子やテーブルが設置されている。利用者は日常的に園庭の草花や菜園の野菜等を愛でる等、好みの場所で四季を感じながら平穩に過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを2台設置、玄関、テラスや屋外にテーブルや椅子を設置して談話できるようにしている。個人、個人で、自由に過ごせる場所作りを行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に家族の写真をコルクボードに貼ってある。本人の使い慣れた物や、好みの物を家族と確認しながら使用して頂いている。居室にて音楽を聴いたり、テレビを視聴されている。	居室はフローリングに腰高窓の仕様で、利用者の身体状況に応じて選択したベッドやエアコンが備えてあり、利用者の意向を確認しながら整理整頓を支援している。利用者は家庭同様に落ち着いて暮らせるように、家族写真や寝具、遺影、楽器、時計等を自由に持ち込み、また、自身の作品も飾って、その人らしい和やかな雰囲気のある居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレ、浴室は、写真や絵で分かりやすく、大きく表示している。自分自身のことではできるだけ、自分でして頂く。手を貸しすぎず、出来ない部分の支援を行う。		

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない